

令和3（2021）年度生涯学習・社会教育関係職員研修 実施報告④

実施日：令和3年7月7日（水）

○ 事例発表「生涯学習の推進に携わって」

宇都宮市教育委員会事務局生涯学習課 主任 岩上 幸代 氏

生涯学習課勤務から学んだことや気づいたことなどについて、宇都宮市の放課後子ども教室での事例を中心にお話いただきました。

はじめに、放課後子ども教室を担当した2年目に1人で担当することになった際、「助けてもらう作戦」として、分からないことはコーディネーターに教えてもらい、仲間意識をもちながら業務を行うことで、ピンチを乗り越えた話がありました。

次に、たくさんの人と知り合うことができる、さまざまな経験をすることができるなど、生涯学習の推進に携わることにより得られたことについて話がありました。

最後にまとめとして、現場と現場をつなぐのは市町職員が得意であること、人の力は借りられるだけ借りた方がよいことなどの話がありました。

受講者は熱心に耳を傾け、うなずきながら話を聞く場面も多く見られ、共感することが多かったようでした。



○ 演習「魅力ある広報記事の作り方」

下野新聞社編集局くらし文化部 齋藤 愛 氏

はじめに、「しもつけ新聞塾」の講師として各小・中・高等学校で出前授業をされている齋藤氏から、新聞作成に関する説明がありました。次に、5W1Hに気を付けながら短い記事を書く練習を行い、読者に伝わる文章の書き方や限られた文字数で事実を分かりやすく伝えること、「見出し」の付け方のヒントを教わりました。

また、紙面の「割り付け」についても、様々な手法があることを学びました。さらに、写真撮影について、カメラを横位置で撮るばかりでなく、縦にしたり、高さや角度を変えたりするなどの具体的なテクニックを聞くことができました。

受講者は、魅力ある広報記事の作り方について学びを深めることができたようです。

受講された皆様、ぜひ各市町の広報紙等で実践してみてください！



【アンケートの声】

- ・市の行政職員の方がどのような考えで日々仕事をしているのか、理解することができました。
- ・一人で頑張るのではなく、様々な人を頼って仕事をしていきたいと思いました。
- ・生涯学習・社会教育は、人と人とのつながりが大切であると再確認できました。
- ・自分が従事している社会教育関係の業務の意義やすばらしさを再認識することができました。また、後半の演習では「公民館だより」の作成に、学んだことを生かしていきたいと思います。
- ・事例発表では、業務の内容は異なるが、人との関わりは共通している部分であり、とてもためになりました。演習では、講座の広報記事の作成やチラシの作成にも応用できるテクニックをいくつも学ぶことができました。
- ・言葉を扱う学びが、とても楽しかったです。今後の業務の中で意識しながら、スキルアップしていきたいと思いました。いろいろな角度からの気づきがありました。
- ・新聞の構成について詳しく学ぶことができました。見出しやリード文作りのコツ等、チラシやHP 作成の参考にしたいと思います。
- ・見出し、写真、図等も、目的を明確にすることが重要だと感じました。広報やチラシの作成に生かしていきたい。
- ・新聞の見方だけでなく仕組みや内容を考えるワークで、新聞は考えて作られていることに改めて気付くことができました。読み手を引きつける工夫が素晴らしいと思いました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp